

令和 8 年度 兵庫県農業気象技術情報第 4 号（8 月情報）について

1 気象経過・予報から想定される栽培上の留意点と対応策

作物	地域	栽培上の留意点	対 応 策
水 稲	全 県 共 通	1 生 育 県南部の極早生品種の「キヌヒカリ」、「どんとこい」では、草丈がやや長く、茎数は多い。高温の影響で生育が進み、出穂は平年に比べ 1 日早まった。 一方、普通期の「ヒノヒカリ」、「きぬむすめ」では、草丈はやや低く、茎数は「ヒノヒカリ」、「きぬむすめ」とともに著しく多い。主稈葉数の進み方はほぼ平年並みである。 県北部では、草丈は長く、茎数は著しく多い。出穂期は「コシヒカリ」で平年より 3 日程度早まっており、地域やほ場間での生育差が生じている。	
		2 栽培管理 早・中生品種は、穂肥診断をもとに、適切な穂肥時期、施肥量を判定する。肥効調節型肥料による省力体系は、幼穂形成期から出穂期までに極端に葉色がさめた場合に穂肥を検討する。極早生品種では、成熟期まで適切な水管理を行い、落水を急がない。 出穂後、かなりの高温が予想されるので、乳白米や登熟不良による品質低下を防ぐため、可能であれば出穂後 20 日間、飽水（湿潤）管理等で日中の熱のこもりを逃がすことに努める。出穂 20 日以降は、間断灌漑や飽水（湿潤）管理によって、根の活力の維持に努める。	
		3 病虫害 (1) 7 月下旬における県全体のいもち病は、平年並の発生である。	3 病虫害 (1) 箱施用剤は移植後、概ね 1 ヶ月半頃から効果が減退する。また、ほ場によって葉いもちの発生程度が大きく異なるので、葉色の濃い箇所や日当たりの悪い箇所などほ場内に入ってよく観察し、いもち病の発生の有無を確認する。発生を認めた場合は、速やかに薬剤防除を行う。 薬剤は「病虫害・雑草防除指導指針」を参考に選定し、適正に防除する。

作物	地域	栽培上の留意点	対 応 策
水稲	全県共通	(2) 紋枯病の発生は、平年よりやや多いと予想される。今後、高温下で垂直進展をするので発病状況に留意する。 (3) ウンカ類の発生について、ヒメトビウンカ、セジロウンカは平年並、トビイロウンカは現時点で確認されていない。 (4) 斑点米カメムシ類の発生は平年並であるが、これまで気温が高く推移してきたことから、今後の発生はやや多いと予想される。一部のほ場では、イネカメムシの多発が確認されている。その他の斑点米カメムシ類も発生がみられており、今後、出穂に伴う加害・増殖が懸念される。	(2) ほ場ごとに発生状況をよく確認し、発生が認められた場合には、出穂前に薬剤防除を行う。 (3) ウンカ類に対して長期的に効果のある箱施用剤を施用している場合でも、処理後日数の経過に伴って効果が低下するので、今後の発生に注意する。この時期のトビイロウンカの発生は局所的であるため、ほ場内複数箇所での調査を行う。 (4) 畦畔・雑草地の除草は、出穂2週間前までに完了させる。 発生状況に応じて薬剤防除を検討する。斑点米カメムシ類の薬剤防除は、穂揃期から乳熟期にかけて行い、その後も発生が多い場合は7～10日間隔で1～2回の追加防除を行う。イネカメムシは出穂直後から穂を加害して不稔穂を発生させるなど収量への影響が大きいので、ほ場内に発生が見られる場合は出穂直後から薬剤防除を行う。 詳細は、8月4日発表の令和8年度病害虫発生予察防除情報第3号（http://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/archives/1676）を参照する。

作物	地域	栽培上の留意点	対 応 策
大豆	全県共通	1 生育 7月中下旬以降、極端な高温となり、降雨や灌水の有無によって地域やほ場で生育差も見られるが概ね順調である。高温寡雨の地域では土壌の乾燥が進み、平年に比べて生育がやや遅延する場合もある。 2 栽培管理 土壌の乾燥が進む場合には、灌水等で土壌水分の確保に努める。開花始めから子実肥大期までの期間は水分保持が最も重要な時期なので、ほ場の乾燥には特に注意し、夕方から夜間にかけて適切に畝間灌水等を実施する。	
		3 病害虫 (1) 7月下旬における茎疫病及び紫斑病の発生は平年並みである。 (2) ハスモンヨトウについては、キャベツの項を参照。 カメムシ類の発生は、7月下旬において、平年並であったが、今後の発生はやや多いと予想される。周辺雑草が好適な繁殖場所となるため、発生に注意する。	3 病害虫 (1) 立枯性病害、特に茎疫病は畝間灌水実施後等、排水対策の徹底が重要である。高温乾燥時にはかん水が必要であるが、急激に水を入れると根に負担がかかり、茎疫病にかかりやすくなるため、徐々に水を入れ、ほ場に水を溜めっぱなしにしない（あくまで走り水程度）。紫斑病対策としては開花期に防除を行う。 (2) ハスモンヨトウの若齢幼虫は、集団で葉上に棲息しているので、早期発見に努め、見つけ次第除去する。 カメムシ類については、着莢初期～子実肥大期に防除する。薬剤は「病害虫・雑草防除指導指針」を参考に選定し、適正に防除する。

作物	地域	栽培上の留意点	対 応 策
キャベツ	全県共通	1 栽培管理 (1) 高温期の育苗となるため、過乾燥・過湿に注意して健苗育成に努める。 (2) セルトレイ育苗中期以降の肥料切れに注意する。 (3) 降雨によるほ場作業の遅れや、台風、長雨による冠水に注意する。 (4) 定植後の活着促進と欠株の発生防止に努める。 (5) 除草剤（土壌処理タイプ）の散布適期を逃さないよう注意する。 2 病害虫 ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウの7月の発生は平年並であった。オオタバコガの発生はやや多い。 今後の発生は、ハスモンヨトウ、シロイチモンジヨトウ及びオオタバコガがやや多いと予想される。 ハイマダラノメイガは、平年並の発生で、今後も平年並の予想である 予想が平年並であっても、これらの虫種については、育苗中から被害発生に注意する。	1 栽培管理 (1) ベンチ等での浮かし育苗とし、かん水の過不足がないよう注意するとともに、苗が徒長しないよう日没前のタイミングでのかん水を控える。 (2) 早めに液肥を施用する。 (3) 高畝栽培とし、明きょ等の排水対策を徹底する。 (4) 土壌の適湿時に耕うん、畝立てを行う。定植の際、セルトレイには十分かん水し、根鉢を湿らせておく。定植後は、かん水チューブ等で十分にかん水し、活着を図る。 (5) 散布直後に降雨にあたらないよう天気予報を確認し、計画的に作業を行う。 2 病害虫 ハスモンヨトウ及びシロイチモジヨトウの若齢幼虫は集団で加害するので、早期発見に努め、見つけ次第除去する。 ハイマダラノメイガは、育苗期や定植直後に加害を受けると被害が大きいので、予防的な防除に努める。「病害虫発生予察情報」、「病害虫・雑草防除指導指針」を参考に適正に防除する。
果	全	1 栽培管理	1 栽培管理

作物	地域	栽培上の留意点	対 応 策								
樹	県 共 通	(1) 高温乾燥による果実や根、葉の傷みに注意する。 (2) 樹勢に応じた着果調節及び枝管理に努める。 (3) 適期収穫に努める。	(1) 高温乾燥が続く場合は土壌水分管理に特に注意が必要である。急激な土壌水分の変化を避けるため、敷き草等のマルチを行うとともに、晴天が続く場合には適度なかん水を行う。ブドウでは果実の日焼け防止に傘かけが有効であるとともに一部被覆の除去も検討する。 (2) 樹種ごとの適正着果量とする。必要以上に枝葉が繁茂している場合は、新梢管理、夏季せん定を行う。 (3) カラーチャートや糖度計を活用し、果皮色、糖度、果実の硬さ等から、収穫適期を判断する。								
		樹種別の生育状況（7月3半旬時点） <table><tr><td>クリ※¹</td><td>開花期は昨年よりも5日早く、着穂は平年並み</td></tr><tr><td>ブドウ※¹</td><td>生育は平年よりやや遅く、果粒肥大や着色は前年並み</td></tr><tr><td>ナシ※²</td><td>果実の生育は昨年並みで、平年より1日早い</td></tr><tr><td>イチジク※¹</td><td>着果始めは平年よりもやや遅く、新梢の生育は平年並み</td></tr><tr><td>温州ミカン※³</td><td>生理落果、果実の生育ともに平年並み</td></tr></table> ※1 加西市 ※2 但馬地域 ※3 南あわじ市		クリ※ ¹	開花期は昨年よりも5日早く、着穂は平年並み	ブドウ※ ¹	生育は平年よりやや遅く、果粒肥大や着色は前年並み	ナシ※ ²	果実の生育は昨年並みで、平年より1日早い	イチジク※ ¹	着果始めは平年よりもやや遅く、新梢の生育は平年並み
クリ※ ¹	開花期は昨年よりも5日早く、着穂は平年並み										
ブドウ※ ¹	生育は平年よりやや遅く、果粒肥大や着色は前年並み										
ナシ※ ²	果実の生育は昨年並みで、平年より1日早い										
イチジク※ ¹	着果始めは平年よりもやや遅く、新梢の生育は平年並み										
温州ミカン※ ³	生理落果、果実の生育ともに平年並み										
果	全	2 台風対策 気象情報に留意し、台風の接近が予想される場合は右記の対策を行う。	2 台風対策 枝折れ防止のため、枝の結束や支柱の強化を行う。防風ネットの補強や防風林の適切な刈り込みを行う。収穫可能な果実はできるだけ収穫しておく。雨水が速やかに園外に流れるよう、排水溝、排水口を点検する。 台風通過前から、病害予防のため薬剤防除を行う。イチジクは腐敗果を速やかに園外に持ち出し処分する。								
		3 病虫害	3 病虫害								

作物	地域	栽培上の留意点	対応策
樹	県共通	7月下旬のナシ黒斑病は平年並の発生である。 果樹カメムシ類の発生は平年よりやや多く、今後の発生もやや多いと予想している。	果樹カメムシ類の飛来状況は地域や園地で異なるため、園地の見回りを実施し、発生や被害を認めたら速やかに防除する。詳細は5月20日発表の令和8年度病害虫発生予察注意報第1号(https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/archives/1621)を参照する。

◎水稻・麦・大豆の栽培については「稲・麦・大豆作等指導指針」を、防除については「病害虫発生予察情報」及び「病害虫・雑草防除指導指針」を参考にすること。

※本情報は、8月10日時点のデータを元に作成しています。

2 気象予報

(1) 近畿地方の向こう1か月予報

近畿地方 1か月予報 (08/15～09/14)		
2026年08月13日14時30分 大阪管区気象台 発表		
特に注意を要する事項	今後1か月程度は気温の高い状態が続く見込みです。また、近畿日本海側では、今後2週間程度は降水量の少ない状態が続く見込みです。	
向こう1か月 08/15～09/14	天候	近畿日本海側では、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。近畿太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率60%です。
	降水量	降水量は、近畿日本海側で少ない確率50%、近畿太平洋側で平年並または少ない確率ともに40%です。
	日照時間	日照時間は、近畿日本海側で平年並または多い確率ともに40%です。
1週目 08/15～08/21	気温	1週目は、高い確率50%です。
2週目 08/22～08/28	気温	2週目は、高い確率60%です。
3～4週目 08/29～09/11	気温	3～4週目は、高い確率50%です。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)					
気温	近畿地方	向こう 1 か月 08/15～09/14	10	30	60
		1 週目 08/15～08/21	10	40	50
		2 週目 08/22～08/28	10	30	60
		3 ～ 4 週目 08/29～09/11	10	40	50
降水量	近畿太平洋側	向こう 1 か月 08/15～09/14	40	40	20
	近畿日本海側	向こう 1 か月 08/15～09/14	50	30	20
日照時間	近畿太平洋側	向こう 1 か月 08/15～09/14	30	30	40
	近畿日本海側	向こう 1 か月 08/15～09/14	20	40	40

低い(少ない)

平年並

高い(多い)

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

(2) 近畿地方の向こう3か月予報

近畿地方 3か月予報（08月～10月）		
2026年07月21日14時00分 大阪管区气象台 発表		
08月～10月	気温	平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。
08月	天候	平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
	気温	気温は、高い確率50%です。
09月	天候	天気は数日の周期で変わるでしょう。
10月	天候	近畿日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。近畿太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
	気温	気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

気温、降水量の各階級の確率（％）					
気温	近畿地方	08月～10月	20	40	40
		08月	10	40	50
		09月	30	40	30
		10月	20	40	40
降水量	近畿地方	08月～10月	40	30	30
		08月	30	40	30
		09月	40	30	30
		10月	30	40	30

低い(少ない)

平年並

高い(多い)

※ 気温・降水量・日照時間は低い・平年並・高い（少ない・平年並・多い）の3階級で予報されます。階級の幅は、平年値の作成期間（1991～2020年）における各階級の出現率が33%となるように決めてあります。

ホームページアドレス

- ・「兵庫県病虫害防除所（病虫害発生予察情報）」
<https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp>
- ・「病虫害・雑草防除指導指針」
<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>
- ・「兵庫県総合防除計画」
<https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk09/sougouboujyo.html>
- ・「稲・麦・大豆作等指導指針」
https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/af11_000000107.html

問い合わせ先

本情報に関すること

- ・兵庫県農林水産部農産園芸課農産・野菜班（主作・機械担当） TEL 078-362-3494
- 農産・野菜班（野菜担当） TEL 078-362-4013
- 花き果樹班 TEL 078-362-9218

技術内容に関すること

- ・兵庫県立農林水産技術総合センター
 - 企画調整・経営支援部 TEL (0790)47-2435
 - 農業技術センター 農産園芸部 TEL (0790)47-2410
 - 農業技術センター 病虫害部 TEL (0790)47-1222
 - 北部農業技術センター 農業・加工流通部 TEL (079)674-1230
 - 淡路農業技術センター 農業部 TEL (0799)42-4880